

令和5年度

幼児教育における

# 「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして

～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～

## 事例集



小学校の先生と共に



保護者と共に



地域の人と共に

子供たちとよりよい未来を！

愛知県幼児教育研究協議会・愛知県教育委員会



- 愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - 幼児期において育みたい資質・能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 幼児教育の基本的な考え方
  - 幼児教育の基本「遊び」は「学び」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1 保護者等に伝えたい！

- 事例 1 インターネットで発信しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
  - ・ 保育の「見える化」の推進  
（ICT、アプリケーション、SNS等の活用）
- 事例 2 保育ドキュメンテーションを作成しよう・・・・・・・・・・ 9
  - ・ 活動の始まりや広がりの子供の気付きから
  - ・ 活動の中で深まる学びのプロセスを明示
- 事例 3 保育の共通体験をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - ・ パパママ先生、大募集！
  - ・ ボランティア活動を通して子供の育ちの共通理解を推進！

2 小学校の教育関係者と相互理解を進めたい！

- 事例 4 幼児教育と学校教育に関する認識の共有をしよう（幼小連携）・・・・ 13
  - ・ 研修を通して分かり合う～「遊びを通した学び」を伝える～
- 事例 5 「遊びを通した学びのプロセス」を共通理解しよう（幼小連携）・・・・ 17
  - ・ 互いに伝え合い、学びをつないでいく年間交流計画
- 事例 6 アプローチ期の実践からスタートカリキュラムへつなげよう  
（幼小連携）・・・・・・・・・・ 19
  - ・ 園児と小学校の交流～就学への期待を高める～

### 3 地域の人や、子供の近くにいる人と子供の育ちを共有したい！

- 事例7 子供の発達と支援について共通理解を深めよう・・・21
- ・ 全ての園職員が子供の発達理解・保護者理解の推進者
- 事例8 地域にある自然の恩恵や知的な財産（施設や人財）を活用しよう・・・23
- ・ 地域の公共施設を活用する
- 事例9 高校生との交流を通して連携・協働しよう（他校種間交流）・・・25
- ・ 高校生と5歳児の交流活動「クッキー作り」

### 4 地域社会と協働し、子供の学びをつなげたい！

- 事例10 社会のみんなとのつながりを深め、子供の育ちを共有しよう・・・29
- ・ 地域の取組や仕組みを保育に活かし、連携、協働を仕掛けていく
- おわりに・・・37
  - 令和4・5年度愛知県幼児教育研究協議会・専門部会委員名簿・・・38



※本事例集で表す「幼小連携・幼小接続」の幼小は、幼稚園、保育所、認定こども園等の施設における「幼児教育」を示した<sup>幼</sup>と、小学校教育の<sup>小</sup>を示している。

※事例にある **ねらい** について

**ねらい**  
取組のねらい

**ねらい**  
(ねらい) 育てほしい子供の姿  
(内容) ねらいに基づき経験してほしいこと

愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ

年度	経	過
昭 47	・協議会の設置	
48	・「幼児教育の指針」の作成	
49	・協議題 4・5歳児の教育(保育)内容を中心に	(答申)
50	・協議題 幼児教育と小学校教育のあり方とその連携	(中間報告)
51		(答申)
52	・協議題 今後における幼稚園と保育所の関係について	(報告)
53	・協議題 幼・保の教育(保育)と家庭教育との連携	(中間報告)
54	・協議題 幼稚園・保育所と家庭との連携	(報告)
55	・協議題 幼児教育の充実をめざす指導の在り方	(中間報告)
56		(報告)
57	・協議題 幼児教育に関する今日的課題	(中間報告)
58		(報告)
59	・協議題 幼児の生活実態とその問題点	(報告)
60	・協議題 幼稚園・保育所における望ましいしつけの在り方	(報告)
61	・協議題 家庭の教育力回復のために幼児教育機関の果たす役割	(報告)
62	・協議題 幼児教育のための保育者の資質向上の在り方	(報告)
	・現職教育資料「保育者としてこれだけは」	(発刊)
63	・協議題 人とのかかわりをもつ力の育成	(中間報告)
平元	〃	(報告)
	・現職教育資料「人とのかかわりをもつ力の育成」	(発刊)
2	・協議題 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いについて	(中間報告)
3	〃	(報告)
	・現職教育資料「自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いを持つ力を育てる」	(発刊)
4	・協議題 基本的な生活行動を主体的に身に付けるために	(実態調査)
5	〃	(中間報告)
6	〃	(報告)
	・現職教育資料「基本的な生活行動を主体的に身に付けるために」	(発刊)
7	・協議題 一人一人の幼児の特性や発達の課題に応じた教育・保育の在り方	(実態調査)
8	〃	(中間報告)
9	〃	(報告)
	・現職教育資料「わたしたちの園にふさわしい教育課程・保育計画」	(発刊)
10	・協議題 心豊かな幼児の育成をめざして	(実態調査)
11	〃	(中間報告)
12	〃	(報告)
	・現職教育資料「保育のポイント Q&A50」	(発刊)
13	・協議題 幼児の心を豊かにする幼稚園・保育所と家庭との連携のあり方	(実態調査)
14		(報告)
15	・協議題 子どもたちのすこやかな育ちを支える幼稚園・保育所と小学校の連携の在り方	(実態調査)
16		(報告)
17	・協議題 幼児期における心の教育	(実態調査)
18	—「命」を感じる教育を考える—	(報告)
19	・協議題 協同的な活動を通して、幼児期の「遊び・学び・育ち」を考える	(実態調査)
20		(報告)
21	・協議題 子どもや社会の変化に対応した教育課程・保育課程	(実態調査)
22	—伝え合う力や規範意識の芽生えを培う体験を重視して—	(報告)
23	・協議題 愛知県のこれからの幼児教育の在り方を考える	(報告)
	—幼児教育の指針の策定に向けて—	
24	・協議題 小学校教育を見通した幼児期の教育を考える	(中間報告)
25	—接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて—	(報告)
26	・協議題 幼児教育の充実に向けた保育者の資質と専門性の向上について	(中間報告)
27		(報告)
28	・協議題 生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方	(中間報告)
29	—幼児期における「学びに向かう力」の育成を通して—	(報告)
30	・協議題 幼児期の育ちを支える幼稚園・保育所・認定こども園と家庭との連携の在り方について—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして—	(報告)
令元	・協議題 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる学びの芽を捉える	(報告)
	—「自然との関わり・生命尊重」の姿に視点を当てて—	
2	・協議題 幼児期の教育における一体的に育まれる資質・能力とは	(中間報告)
3	—子供の具体的な遊びや生活の姿から考える—	(報告)
4	・協議題 幼児教育における「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして	(中間報告)
5	～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～	(報告)



## ● はじめに

愛知県幼児教育研究協議会では、令和2・3年度の研究「幼児期の教育における一体的に育まれる資質・能力とは」において、子供の具体的な遊びや生活の姿から考える事例集をまとめ、WEB ページで報告している。

今回の令和4・5年度テーマの「社会に開かれたカリキュラムの実現をめざして」は、その続編として見ていただきたい。

『社会に開かれたカリキュラム』の実現とは、よりよい教育を通してよりよい社会を創るという目標を園と社会とが共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育むことを意図する。

よりよい教育を進めるために、その在り方について幼児教育施設と家庭や小学校、地域とで相互理解を図り、組織的かつ計画的に教育・保育活動の質の向上に向けて力を合わせていくことが求められる。

幼児期の教育は、小学校以降の教科を通じた学習と違い、遊びや生活の中で一体的に育んでいくという特性がある。また、幼児期の学びの特性として、「環境を通して行う教育」「五感を通じた体験」「遊びを通し総合的に学ぶ」ことが重要と言われている。

この特性を踏まえて、教育・保育活動を円滑に実践していくために、保育者には質の高い専門性が求められる。子供の姿から発達を理解し、次の育ちを促す手立てを講じていくためにも、研鑽を積むことが必要になる。

幼児教育研究協議会では、長年に渡り研究を重ね、保育者の研修に役立ててほしいという思いで報告書をまとめてきた。今年度の本報告書は、保育者だけでなく、社会の人々にも幼児期の子供の育ちや教育の在り方について理解してもらいたい、というねらいをもって作成している。

幼児期の教育の考え方については、前回報告した（文頭で紹介した）事例集の冒頭で詳しく述べている。次ページに一部省略・抜粋して掲載するが、ぜひ、下記のページにアクセスして全文を御覧いただきたい。



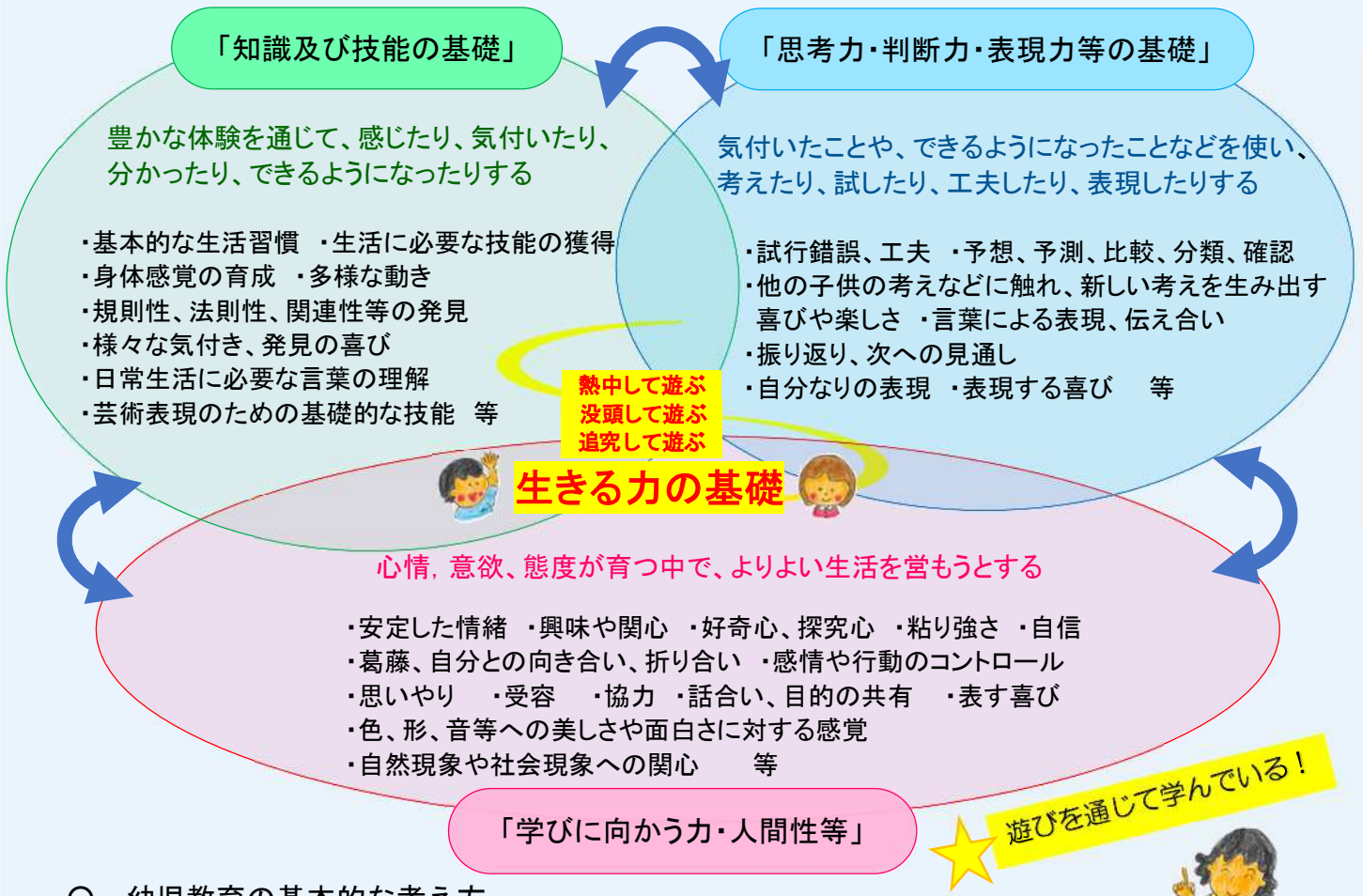
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/410463.pdf>



育みたい資質・能力は、小学校以降に育む「生きる力」につながります。幼児教育段階では、育みたい資質・能力を、具体的に次ページの3つのように捉えています。

## 幼児期において育みたい資質・能力

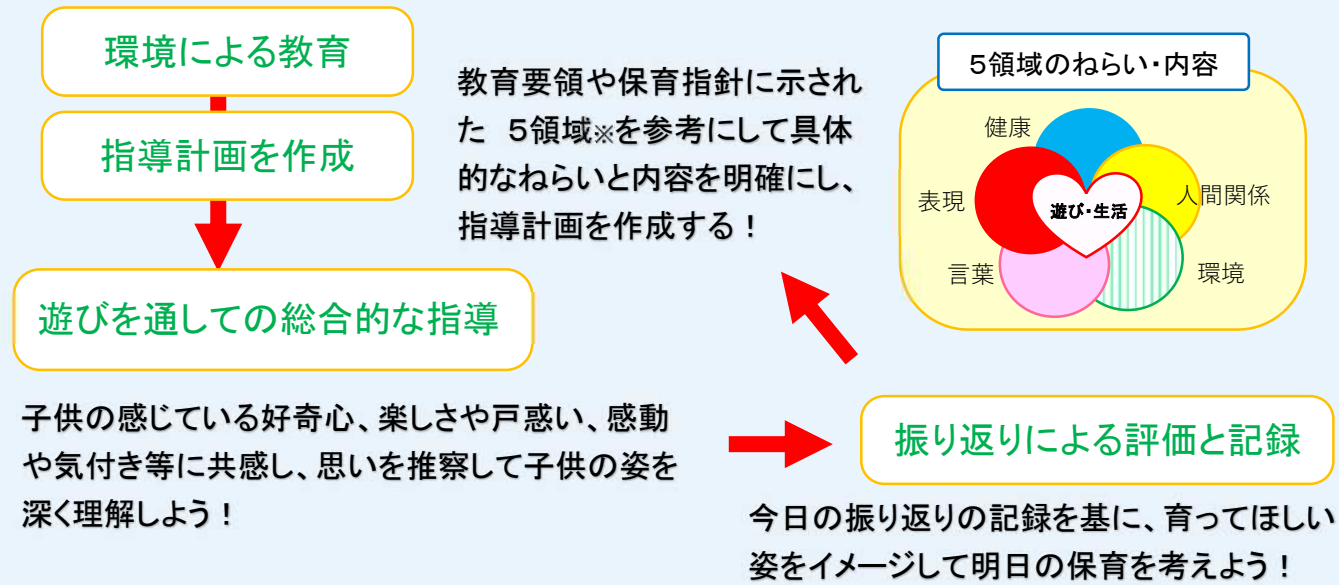
(文部科学省「平成28年3月教育課程部会・幼児教育部会資料」を参考にして作成)



### ○ 幼児教育の基本的な考え方



幼児期の保育・教育は、生きる力の基礎を培うために、幼児期において育みたい資質・能力を踏まえて、教育課程に基づく指導計画を作成し、実践を積み重ね、評価し、改善を図ります。この一連の流れの好循環を通して、各園の教育活動の質の向上を図っていきましょう。



※ 5領域とは、子供の発達側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。

## 幼児教育の基本 「遊び」は「学び」



子供の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であり、小学校以降の生活や学習の基盤ともなる。

そのため、幼児教育では、子供が没頭し熱中して遊ぶことのできる環境を整え、遊びを通して総合的に指導することを重視している。

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを鑑み、幼児期の「遊びを通した学び」の意義や効果を認識する必要がある。

「遊んでいるだけでいいのか」「遊んでばかりいる」など、「遊び」を否定的にとらえるような言葉を聞くことがあるが、幼児期の「遊び」や「子供が遊ぶ姿」について誤解を招くことがないようにしたい。

遊びを通して育っていく子供の姿を、保育者も子供の家族も、小中学校の先生たちも、地域の人たちも、社会のみんなで理解するために、子供が育つ上で大事にしたいこと、一人一人の個性や発達にふさわしい関わり方を、連携・協働して考えていきたい。

※令和4年度愛知県幼児教育研究協議会作成資料から抜粋



本事例集では、次のような事例について具体的に紹介している。各園の保育実践や、他所との連携・協働を進める際に、参考としていただきたい。

### 【実践例】

- (1) 園から発信する情報によって、相互理解が深まり、価値観の共有が進展する事例。
- (2) 連携、協働によって幼児期の子供の発達の見方や教育方法の在り方・考え方が歩み寄る事例。
- (3) 多忙な中でも、効果的に情報発信できる方法について工夫し、実践する事例。
- (4) 交流活動等、組織的かつ計画的に教育・保育活動を計画・実行し、振り返る中で次への課題を共有する。また、互いのカリキュラム、あるいは地域の連携推進計画の見直しを図る事例。